



## 人権標語

最優秀賞  
(三点)

大崎中学校 一年 中島 色葉

「たくさんの

仲間がいるよ だいじょうぶ」

大崎中学校 二年 岡部 呼々愛

「そのコメント大丈夫？

画面のむこうも 同じ人間」

大崎中学校 三年 川越 海琥

「認め合おう

十人十色の 多文化社会」



## 言葉の力

野方小学校 六年

倉富 玲

「うるさい、だまれっ。」

ぼくの口から飛び出た言葉は、大きな風船がはじけて割れたように、教室の中に飛び散った。「ああ、いらいらする。こっちは気分よく歌っていただけなのに、何でぼくにばかり言うのだろう。」休み時間、ちよつと鼻歌を歌っていただけなのに、どこからか冷やかすように聞こえてきた「おんち。」という言葉。本当にいやになる。さっきまで楽しい気持ちだったのが、うそみたいになり、たったの一言でぐちゃぐちゃにされる。今、ぼくの心はどろどろのどろまみれだ。こうなると、自分でもどうしていいかわからないくらい暴れだしたい気分になる。「どうしたの。大丈夫。」ぼくのいらいらした気持ちに気が付いたのか友達の声をかけてくれた。心配そうにのぞきこんでくれたその顔とやさしい声に、もう一度、破れつしかかっていたぼくの心の風船は、「ぶしゅう。」と一気にしぼんで

いった。「ありがとう、何でもないよ、大丈夫。」笑顔になったぼくがいた。

ぼくは、言われた言葉にすぐに反応してしまう。いやなことを言われたら、いやな言葉で返してしまう。言ってしまったから「しまった、言わなきゃよかった。」と思うこともある。でも、自分の気持ちを伝えたいというのもちがうと思う。もやもやの気持ちにふたをして、がまんしてみたこともあるが、すぐ苦しかった。いやなことはいや、うれしいときありがとう。言うべきことは言わなければいけないと思う。そのときに大事なのは、やはり相手の気持ちを考えると、いうことなのだろう。いやなことを言われたら、一度深呼吸して、何でそんなことを言われたのか相手の気持ちを考えてから、自分はどんな気持ちだったか、これからどうすればいいか、落ち着いて、言葉を選んで、相手に真つすぐ伝わるように伝えたい。それと同時に、ぼくはもっともつと相手がうれしくなるような言葉も使いたいと思う。「大丈夫。」の一言で、ぼ

くの心がすつと軽くなったように、言葉には人の心をいやしたり、元気づけたりする力があると思う。手伝いをした後の、母からの「ありがとう。」の一言は、さらにやる気を倍増させてくれる。学校帰りの「さよなら、また明日。」は一日のつかれをふつとばして、明日がうきうき待ち遠しくさせる。また、ぼくは野球をしているのだが、ピンチの時に大きな声でポジティブなことを言って、自分自身やチームメイトの士気を高めると、試合がいい方向に進むことが多い。言葉の力は本当にすごいと思う。

人を傷つけたり、悲しい気持ちにさせたりすることもできてしまう言葉。これからは、気持ちのままに言葉を返すのではなく、相手の気持ちを考え、みんなが気持ちよく、分かり合えるような言葉を返せるようになりたい。

